

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

セコム損害保険株式会社（証券コード：ー）

【据置】

長期発行体格付	A A
格付の見通し	安定的
保険金支払能力格付	A A
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 警備業界最大手のセコムが約 98%を出資する同社の連結子会社。セコムグループの保険事業を担っており、セコムのサービスと関連させた商品の展開、セコムグループ企業による販売など営業面での結びつきは強い。また、セコムとの間で、当社の純資産額が一定水準を下回った場合などにセコムが資金を提供することなどを約した純資産維持に関する契約を締結している。当社の格付には、保険本業の収益性や財務の健全性などを踏まえた単体の評価に加えて、セコムグループにおける位置付けや支援の可能性などを勘案し、セコムの信用力を織り込んでいる。
- (2) 事業規模はやや小さいものの、特色ある商品展開と独自のチャネル戦略により、販売実績は堅調に推移している。火災保険とガン保険で正味収入保険料の7割弱を占める商品構成となっており、コンバインド・レシオは業界平均と比較すると良好な水準にある。セコムとのクロスセールスを強みとする火災保険では、拡販余地のあるセコムユーザーに対する保険付帯率の向上に取り組んでおり、その成果が注目される。実損填補型のガン保険「メディコム」は、自由診療や先進医療をカバーする商品性を特徴としており、富国生命保険との提携やプロ代理店の開拓などにより販売額が伸びている。一方、自動車保険の構成比は2割弱と他社比小さいものの、セコムの緊急対応処員による現場急行サービスを付帯するなど商品の差別化が図られている。
- (3) 比較的収益性の高いメディコムの構成比が高まっている上、自動車保険の損害率が改善していることから、18/3期までコンバインド・レシオは80%前後で推移してきた。19/3期は頻発した国内自然災害にかかる発生保険金の増加を、再保険の回収や異常危険準備金の取り崩しによって概ねカバーしたものの、火災保険の割合が大きく、今後も自然災害の影響は避けられない。もっとも、メディコムなどに下支えされた収益性を勘案すると、当面一定の収益を確保することは可能と JCR はみている。資産運用面では、株式を含めた価格変動リスクがやや大きいものの、低金利環境が継続する中でも過度なリスクテイクはみられない。信用力と流動性が高い債券中心の運用を行っており、有価証券にかかるリスクは総じて管理可能とみられる。中核的な自己資本については、足元で異常危険準備金が減少しているが、ここ数年で内部留保が着実に積み上げられており、リスク対比で問題のない水準にある。
- (4) 17年度から進めている中期事業計画では ERM の経営への活用に向けた取組強化を掲げ、商品・リスク区分別の収益性指標の設定などリスク・リターン管理が徐々に浸透しつつある。ERM への持続的な取り組みを可能にするための組織態勢の構築や人材育成を進めつつ、引受の厳格化や価格戦略および再保険政策を通じて、収益基盤の安定化を図ることが中長期的な課題となろう。また、メディコムの損害率は低位にとどまっているものの、医療技術の進歩の影響、将来の罹患率や自由診療の利用率などが想定と乖離しないかなどを確認していく必要があると JCR は考えている。

(担当) 宮尾 知浩・阿知波 聖人

■ 格付対象

発行体：セコム損害保険株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA	安定的
保険金支払能力	AA	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2019年4月23日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：宮尾 知浩
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「損害保険」(2013年7月1日)、「親子関係にある子会社の格付け」(2007年12月14日)として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) セコム損害保険株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■ NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a) 項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官 (格付) 第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル